

聖光学院校友会報

聖光学院
校友会発行

横浜市中区
滝之上100番地
聖光学院内
☎045 (621) 2051
発行人 友田 進
印刷所
神奈川新聞社

ジャズの音色を楽しみながら



菘部雄崇カルテット



壇上で近況報告する卒業生



司会の榎内誠氏

第13回 「卒業生の集い」開かれる

六月二日は横浜市の開港記念日。例年、開港祭が盛大に催される。入梅前の早い季節でありながら、花火大会のため浴衣姿で出かける女性もいる。

今年は週末にあたり、ジュン・ブライドとして結婚式を挙げたカップルも大勢いたに違いない。開内の「ホテル横浜ガーデン」も御多分にもれず、披露宴会場としてフル稼働していた。

ただ一つの例外として、五階の「フリージア」だけはデザイナータイムの二時間、オジサンだけの集団に占

拠された。恒例の「聖光学院卒業生の集い」である。地元行事の影響を受けた自営業のOBも少なくなく、新世紀初の「集い」の参加者は六〇人に留まった。

会場にはトマス・トランプ校長、森孝先生のお姿もあった。直前に宴会場を使用していた披露宴のため、予定より二十分遅れて開始。司会進行役は毎度お馴染みの榎内氏(十五期)。

友田会長(二期)の開会の挨拶、トマス先生の校長挨拶に続き、乾杯の音頭をとったのは三五期の岩沢氏。

三七期と三八期を二名ずつ伴い若手五人で壇上に。歓談の時間、アットホームなパーティーを大いに盛り上げてくれたのが、OBのジャズバンド「菘部雄崇カルテット」の面々。今回は彼らの演奏とともに始まり、終わった。「巧い」と唸ったのは、かつて在学時に「矢野バンド」を率いて聖光祭でサザンを熱唱していた矢野氏(二期)。

コンパニオン(不況の反映か今回は妙に親切だった。ちなみに記者は八年連続参加)を交えて談笑しつつ、各期交代でマイクを握り、壇上から近況報告など。

まずは産婦人科医の池永氏(十五期)から「馬車道レディースクリニック」開業のお知らせ。不妊治療の研究が専門の医学博士である。

山田氏(二八期)はシンクタンクでSEを務める。伏見氏(二〇期)はOB情報サイト「滝ノ上番外地」を運営。前号の本紙記事に引き続き、メーリングリストへの参加を呼びかけた。

小島氏(七期)は聖光OBゴルフサークル「滝ノ上Bゴルフクラブ」の会長就任の挨拶。次回のゴルフコンペは八月二三日(木)に開催予定。中華街「景德鎮」の割引は既に終了。

北井氏(七期)はスカイビル調剤薬局を経営の傍ら、映画や演劇に音楽作品を提供。八月一日(水)に大倉山記念館で開催のダンスの舞台でピアノを担当。

最後に登場したのは浜田氏(三七期)と湊谷氏(三三期)。湊谷氏は水泳部出身の評論家として、凍死防止のため学内プールの屋内&温水化を訴えた。

大寺氏(四期)のパンザイ節をたっぷりと聞いてから、恒例の「バンザイ」と校歌斉唱でお開き。

終了時、隣の宴会場「ラック」は披露宴後の見送りの最中だったが、花嫁の父は奇しくも聖光学院元教諭の田畑先生。大寺氏曰く「挨拶してきたけど、あの先生はホント厳しかったんだ。娘があんなに綺麗だとは意外だねえ。人の嫁さんってよく見えるもんな、ウヒ。(中略)オレの娘は絶対よその男なんかには渡さないね。××にカギかけてやるんだ」と。ところ

で、記者と同じ二七期の奥山正純君もこの日に中野サンプラザで結婚式を挙げた。麻里子夫人と末永くお幸せに!

なお、「集い」に先立ち評議員会が開催された。金子副会長(四期)の開会挨拶に始まり、議長に高倉副会長(三



期)を選出、次いで中寫事務局長(十一期)より平成十二年度会務報告・会計報告、古川幹事(二期)より監査報告が行われ、いずれも満場の拍手で了承された。横内氏(二期)から「より多くの評議員が意見交換に参加できるように、年一回だけでなく機会を工夫しては」との提案意見があった。

が、日々接する聖光生は総じて素直かつまじめで、授業に対し前向きな姿勢を持っています。他校での教職を経験した私にとって、これはちょっと驚きでもありません。聖光の昨今の目を見張るばかりの躍進も、そんなところに端緒があるのかもしれない。

今年の夏、私は金山平にある高校キャンプ場を高校二年時(高一の時)は中止だったので、以来十数年ぶりに訪れる機会を得ました。バスをお借りしてキャンプ場までひたすら続く山道をいつまでも歩くのかと思いきや、静岡聖光キャンパス場協までバスは登りつめ、トイレも生徒用は簡易式ながらなんと水洗になり、押し寄せる

文明(?)の波は静かに山間のキャンプ場に迄近づきつつあります。しかし金峰山の威容は、それを拒むかのように高く聳え、今年もまた多くの聖光生を迎えました。かの昔、私たちが苦しんだのと同じように、41期生も苦しんでいました。

就職された卒業生の方々

朝倉慎二(23期)

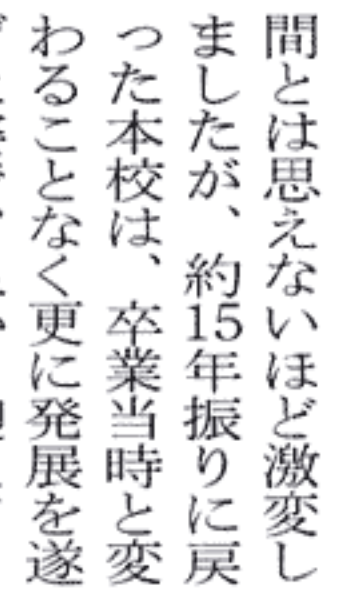


平成13年1月より法人事務局長の職となりました朝倉と申します。

昭和61年に本校を卒業し、慶応義塾大学経済学部で学び、平成2年に三井信託銀行(現在は中央三井信託銀行)に入社、約11年間の銀行員生活を過ごしてきましたが、この度縁あって法人事務局長の職員として本校に戻ってまいりました。

就職された卒業生の方々

千綿正洋(27期)



この4月より公民科教諭として着任しました千綿です。聖光に勤めるのは実はこれが2度目で、前回は大学出たての平成6年からの1年間でした。講師の身の上でしたが中2の日本史担当として36期生の副担任、水泳部の顧問、猪苗代キャンパス常駐と専任に近い形の仕事をさせていただき、

公民科教諭

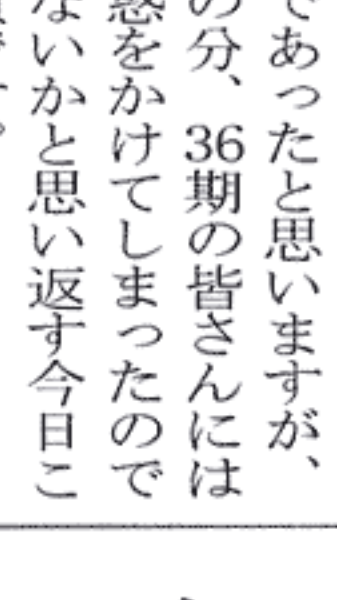
千綿正洋(27期)



後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

逝去された教職員の方々

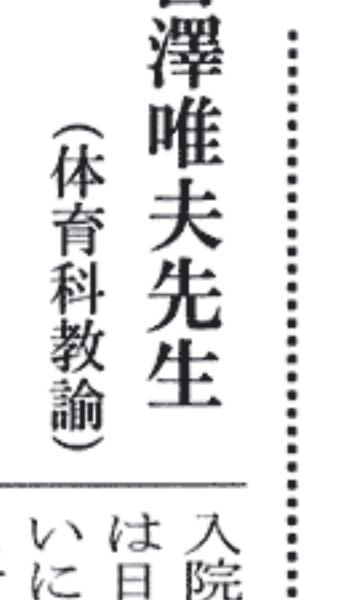
デシエヌ先生(前校長)



ケベック州モントリオールにて、逝去されました。享年五十九歳でした。デシエヌ先生は、昭和十六年(一九四一年)九月十五日カナダ、ケベック州グラネル生生まれで、昭和四十一年に来日し、さゆり幼稚園園長、聖光学院(横浜)校長、キリスト教教育修士会日本代表、学校法人静岡聖光学院理事長、静岡聖光学院校長を歴任されました。

逝去された教職員の方々

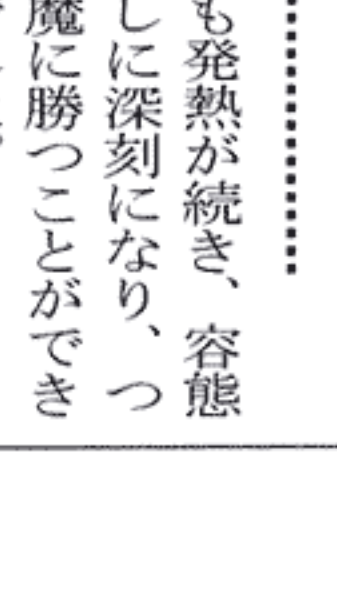
吉澤唯夫先生(体育科教諭)



聖光学院体育科教諭吉澤唯夫先生は、去る九月二十二日に、入院先の東海大病院にて、逝去されました。享年六十二歳でした。先生は、体調を崩され九月四日に検査入院しました。

逝去された教職員の方々

吉澤唯夫先生(体育科教諭)



入院後も発熱が続き、容態は日増しに深刻になり、ついに病魔に勝つことができず、逝去しました。

かつては、柔道のオリンピック候補選手だった先生は、昭和三十九年から三十七年間、一貫して柔道の授業を受け持ち、また、柔道部顧問として勤務されました。その指導は、厳しい中にも慈愛あふれるものでした。お別れ会では、生前の故人の人柄を慕って、多くの卒業生、在校生が集いました。